



2022年7月中旬配本予定

『原爆の図』とその周辺

織田達朗評論選

丸木位里・俊夫妻による『原爆の図』を寸毫の仮借なく批判した表題作、その他、未だ読み解かれざる美術評論五編を収める。

戦後、日本美術の状況の背後に隠された問題点を別抉する批評があまりに辛辣であったがために、その世界に居場所を失い、追放された、織田達朗という評論家がありました。

この異端の天才の遺した言葉を読めば、私たちは、私たちが今日、大切に胸に抱いてあやしている「アート」というものの眉唾の来歴と、欺瞞的で醜悪な貌つきを根底から問い直さざるをえなくなります。

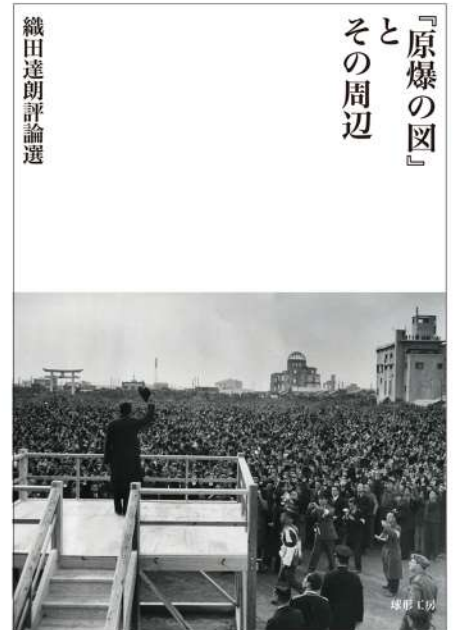
ディレクタントも、スノップも、だれもかれもを浮かれさせるアートシーンによって忘れられたまま、それでもそこに、つねに不吉な影のようにつきまとう〈灰燼の眼差〉。それが見つめる未来から、織田達朗は、鬼にでも、悪魔にでもなって戻ってくるでしょう。身震いとともに彼の存在を思いおこし、この場に真の地獄をたぐりよせるための序章となる五編をお送りします。

目次より

- 『原爆の図』とその周辺
- 存在の断崖にとどまる
- 天皇制美術の実体——その万世一系性の批判的推察として
- 火のパプテスマの既存において
- 〈黒い魔〉の告知への道——灰燼からの出発



本体1,000円+税
A5判・並製(小口折り表紙)・72頁
カラー図版11点、モノクロ図版12点掲載
ISBN978-4-9912228-1-8 C0070



表紙のイメージ

著者:織田達朗(おだ たつろう)
1930年、東京都生まれ。美術評論家、詩人。1958年8月、『美術手帖』(美術出版社)の「第三回美術評論募集」において「『原爆の図』とその周辺」が「第一席入選作」となりデビュー。『美術手帖』『みづゑ』(美術出版社)、『三彩』(日本美術出版)等を中心に評論活動を行う。2007年7月19日逝去。
著書に『窓と破片:織田達朗評論集』(美術出版社、1972年)、『鈴は照明す:織田達朗詩片集成』(遠方社、2002年)がある。

球形工房について:2021年、出版社としてスタート。一般向け書籍第1弾として『ジャコメッティとの最後の会話』を刊行しました。続いてお送りするのが本書です。今後も芸術書や人文書のジャンルを中心に、(猫の手を借りながら)出版活動をしてまいりますので、よろしく願います。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922 mail:info@tsubamebook.com
TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印) ご担当: 様	新刊 球形工房 https://www.kyu-kei-kobo.com 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人
	注文数 『原爆の図』とその周辺 織田達朗評論選 織田達朗著 本体1,000円+税/72頁/A5判・並製(小口折り表紙) ISBN978-4-9912228-1-8 C0070